

山と電気の風景論 ②⑤

日光男体山と筑波女体山～鬼門を守る縁結びパワースポット

セリングビジョン㈱ 代表取締役 岡部 秀也

両座の特徴：共通点と相違点

日光男体山と筑波山は、百名山でありパワースポットでもあり共通点が多いが、違いも少なくない。

共通点は、両座とも、男女の山が並び比較的都市に近接し、2時間程度で登山口まで行くことができる点である。また徳川時代からの神社など歴史を感じさせる。日光は徳川家康の廟を祀った家光、そして筑波は何と言っても水戸の副将軍（水戸黄門）が有名で、家光将軍も参道を整備している。日本の国歌・君が代にある「さざれ石」も神社の入り口に安置されている。古来からの万葉集や和歌が石碑に刻まれ、両座の登山口で日本の歴史に思いを馳せた。江戸時代には江戸城から見て鬼門の方向に神社が建てられた。日光東照宮の男体山は徳川家康の霊廟があり、まさに鬼門を守っている。筑波山も同様に登頂でお守りのご利益があるという。

違いといえば、まず日光男体山は内陸で山が連なる中禅寺湖沿いのリゾートエリアに位置するのに対し、筑波山は太平洋岸に近く、田園や霞ヶ浦のそばにある点だ。また、日光は男体山がシンボルであり遠く離れて女峰山がひかえるのに対し、筑波は女体山が最高峰で主峰となっており、男体山には気象観測所があり関東にお天気予報を出してはくれるが、女王に隠れて控えめな感じがする。

日光男体山<標高2486m>(平成26年5月17日)

日光駅からバスで中禅寺湖に着くが肌寒かった。中禅寺湖畔の二荒山神社では、狛犬の姿が目についた。



日光男体山山頂。鳥居&剣が建つ



帰路、中禅寺湖を眺めて下降

一匹は失敗災難の口を閉じ、一匹は成功幸運の口を開けている。まずは神社で登山の無事を祈った。入山のため登山参拝札とバッジを求めた。天気は、晴れ後曇りだったが、山頂は予想外に風が吹き、低体温症が心配なほどであった。頂上で剣頂上と勝道聖人像前で記念写真を撮ってもらい、ランチを半分残したまま下山した。手袋をしたが手先がしびれつつあったからだ。

下りを急いだが、一度足を滑ったものの転ばなかった。二本のストックをフル活用したためだ。

ドイツ人家族ら8人団体も見かけ声をかけた。子供たちはトレランで足が早い。家族で休暇をエンジョイするために軽装で登山に来ていたが元気で感心した。

帰りの神社で登山お礼の参拝をし、石楠花の花と幸福の道を散策した。華厳の滝もそばにあり、また日帰り入浴の中禅寺湖温泉もありゆっくりできる。日光の名物、ゆば饅頭とゆばラスクを土産に帰路についた。

【行程】

往復5時間50分(登山途中での休憩や頂上30分休憩含む)、標高差1211m、距離4.5Km

9:30 二荒山神社着。中禅寺湖を眺め、参拝、入山券購入。

9:45 登山開始。

10:15 三合目(その後、四合目、六合目、九合目で5分休憩。七合目から残雪を踏みしめる)。

12:45 登頂。30分、凍えるような寒さでランチ。剣刺さる頂上で記念写真。

13:15 下山開始。帰路は、山中から中禅寺湖を眺望した。六号目避難小屋で休憩。

15:35 二荒山神社着(安全登山の礼拝)。

筑波山(女体山)<標高877m>(平成30年2月12日)

筑波山には800種類もの花が咲く。梅林やカタクリの里もある。初心者でも登ることができ、江戸の町からみると西の富士に対し、東の筑波と江戸時代は言われていた。いまは、つくばセンター駅からバス40分。高エネルギー加速研究機構、防災科



筑波山で凍結の山道をまずは低い男体山へ。右は気象測候所



女体山、最高峰

学技術研究所など学園都市の車窓から、のどかに眺めた。バスは満席で立つ登山者もいた。立春でもポピュラーな山だ。

2月上旬は大雪が関東を襲い、筑波山頂上も1mの雪で出店も閉まった。それから一週間経つ登山日は、雪溶けが進むが、標高が高い日陰の登山道はまだ氷結し、アイゼンが必要だった。しかし普通のスポーツシューズで登る人たちもいて、滑って転倒していた。アイゼン無しの登山靴だけの人たちは、かなりのスローペースで難儀していた。麓が雪溶けなので筑波山を甘くみていたと話していた。さすがに、軽装備の方々は下山はさらに危険なのでロープウェイやケーブルカーで降りていかれた。

筆者は、前は数年前の初夏に岳友と登ったが、暑くて逆に熱中症で倒れた登山者をヘリコプターで運んだ場面を見た。その時は暑くて下山を急ぎ、ゆっくり目玉の景色や名物岩や神社を見る余裕がなかった。今回は、見逃しがちな紫峰杉や男女川の一滴、屏風岩、白蛇弁天、高天ヶ原神社も時間をかけて味わえたことは幸いであった。

【行程】

往復5時間19分(休憩、寄り道含む)、標高差666m、距離6.5Km

10:15 筑波山神社参拝。

10:34 登山口出発。

11:34 男女川(アイゼン装着)。

12:05 御幸ヶ原。

12:25 男体山。

12:40~13:10 店屋で蛙登山バッジ。

13:15~13:25 コマ展望台。

13:33~13:45 紫峰杉、男女川上流(寄り道)。

14:20~14:35 屏風、大仏、北斗石。

14:44 胎内~稲村神社(高天ヶ原)。

14:51 弁慶七戻り。

14:53 分岐点(つつじヶ丘と神社への分岐)。

15:38 白蛇弁天。

15:53 筑波山神社到着。



ガマの石



弁慶の七戻り。虎穴に入らずば虎児を得ず?の人生訓



電力流通設備と筑波山。バスから撮影

電力の風景

日光の男体山からの雪解け水は、中禅寺湖、華厳の滝から大谷川に流れ、水力発電所を形成している。付近の日光第二発電所は、現在稼働の発電所の中では、東京電力最古で1893年に運開した。当時の皇太子殿下(昭和天皇)も別荘から日常のご覧になられていたという。関西電力蹴上発電所に次ぐ伝統をもっている。少し離れた場所では、今市発電所(105万kW)などの大型発電所が運転中である。

一方の筑波山の周りは、福島復興電源や太平洋岸の原子力、火力、再生可能エネルギー(最近では洋上風力、バイオマス発電所など)の送電線ルートとなっている。茨城県では高性能なIGCC火力発電所や、日本原子力発電の東海第二原子力の再稼働が期待される。JAEA(日本原子力研究開発機構)も拠点を構えている。筆者は、常磐線特急に毎週のように乗ったり、車で常磐道を走り、福島復興を目指して浜通りに出張している。そのたびに、いつも筑波山を遠景してきた。おそらく、茨城や福島に東京方面から向かう読者の皆様も同じく、筑波山を見て感慨深いものがあるかも知れない。